

総合ガイド

ひらがな 1・2

(ひらがな1・ひらがな2共通)

読み書き障害について

読み書きは、音と文字の組み合わせです。音をイメージする力が弱い場合には、その文字を見て、その音を言うことが難しくなります。音をイメージする力が弱いと、言葉を短時間記憶することや、絵の名前を速く言うこともとても難しくなります。

読み書き障害は、子どもによって違い、個人差が大きいことも指摘されていますが、読み書き障害の原因の中で、音韻障害理論は、最も説得力がある理論として考えられています。

音韻性の読み書き障害

ひらがなは、ほとんどが一文字一音です。「あいうえお」や「ガギグゲゴ」など音の単位と一対一でできている文字の習得はできても、「こっぷ」や「ぞう」など特殊な読み方をする文字の理解に困難を示す子どもたちがいます。音韻性の読み書き障害は、特殊音節の習得やひらがな文の読みに困難を示します。また、漢字の読み困難を示す傾向にもつながります。

ひらがなの音

ひらがなは、大きく6つに分かれます。「あ・い・う・え・お」から始まって、「か・さ・た・な・は・ま・や・ら・わ行」の清音（せいおん）の45文字、「が・ぎ・ぐ・げ・ご」から始まって「ざ・だ・ば行」の濁音（だくおん）と「ば行」の半濁音（はんだくおん）の25文字、「らっば」のように文字と文字の間の小さい「っ」の促音（そくおん）、「きゃべつ」の「きゃ」のように小さい「ゃ・ゅ・ょ」のつく拗音（ようおん）、「おかあさん」の「あ」のように「か」をのばして言う長音（ちょうおん）、そして、「ん」の撥音（はつおん）です。

清音や濁音を覚えれば多くの言葉を話すことができますが、促音や拗音、長音の特殊音節でつまづきがでてしまいます。

清音（せいおん）	ひとつの音	「あ・い・う」
濁音・半濁音 <small>（だくおん） （はんだくおん）</small>	にごった音	「が・ぎ・ぐ」「ぱ・ぴ・ぷ」
促音（そくおん）	つまった音	小さい「っ」
拗音（ようおん）	ねじれた音	「きゃ・きゅ・きょ」
長音（ちょうおん）	のばす音	「おかあさん」の「あ」
撥音（はつおん）	はねる音	「ん」